

氏名	山 本 雅 一
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	甲 第 204 号
学位授与の日付	昭和41年9月30日
学位授与の要件	医学研究科病理系微生物学専攻 (学位規則第5条第1項該当)
学位論文題目	犬腎培養細胞によるジステンパーウィルスの研究 第1編 犬腎培養細胞に対するウィルス感染実験 第2編 ジステンパーウィルスと麻疹ウィルスの関連性について
論文審査委員	教授 村上 栄 教授 水原 舜爾 教授 山崎 英正

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

ジステンパーウィルスを犬腎培養細胞に感染馴化させることが出来た。即ち、細胞変性効果 (CPE) の主なものは、多核巨大細胞形成、細胞質内及び核内封入体の形成等であった。そしてCPEの発現する迄には、ウィルス接種後約3～4週間を要したことも特異的であった。しかしながら、ウィルスの感染馴化ははやく、継代2～3代目で既に安定した感染価を示した。HeLa細胞、FL細胞、JTC-3細胞及びPS細胞にも感染させることが出来たが、やはり犬腎細胞に対する感受性が良かった。尚、麻疹ウィルスとの間の関連性の比較を同一条件下で検討することが出来た。即ち、両ウィルスの示すCPEは全く同じであったが、その発現時間は異っていた。そして感染価は麻疹ウィルスの方が幾分高い価を示した。免疫血清学的には、麻疹患者血清中に、麻疹ウィルスに対する中和抗体は勿論、ジステンパーウィルスに対しては更に多くの中和抗体を含んでいた。

岡山医学会雑誌第78巻4，5号1-17頁

(昭和41年5月30日発行)

論文審査の結果の要旨

山本雅一提出の「犬腎培養細胞によるジステンパーウィルスの研究」に関する学位論文につき審査した結果の要旨は次の通りである。

distemper virus と measles virus とは免疫学的に強い関連性を有し、且つ感染細胞の病理形態的所見も類似していることが明らかにされた。(Adms 等1957)

山本は犬腎培養細胞を用いて同じ条件下に両 virus の関係を追求した。即ち感染状態、病理形態学及び免疫血清学的に研究し、両 virus は感染像並びに免疫血清学的には鑑別し難いが、感染価及び cytopathic effect の発現するまでの経過日数の上から明らかに鑑別し得ることを確かめた。

以上の通り本論文は新しい知見に富み学術上有益であり著者は医学博士の学位を授与せられるべき学力を有すると認める。